

## 宮太郎のお話 第2話

# 仲間たちとの出会い編 馬のマリーヌとの出会い

### 第1話あらすじ

野川の川を流れてきた宮前メロンから生まれた男の子は、福祉のお寺の和尚さんに「宮太郎」と名付けられ、愛情いっぱい夢いっぱい育てられ、いつの日にか生まれ育った宮前の地域のお困りごとや困っている人を助けたいと思うようになり、福祉課題の解決のため行脚に出かけていくことになりました。



宮太郎

ある日、福祉の修行に出かけた先で、にんじんを目の前にぶら下げ、まっすぐにひた走る馬を見かけました。

宮太郎はふと、馬を呼び止め、「お馬さん、何をしてくるでござるか？」と尋ねると、「にんじんをぶら下げると、前しか見えないんだ...」と馬は笑って言いました。

宮太郎が、にんじんを外して食べさせてあげると...馬はますます元気になり、あたりを颯爽と駆け回りました。

すると、今までにんじんで遮られ見えなかった困りごとが見えてきました。特に、地域で買い物にお困りごとを抱えたじいじや、ばあばの様子が目に留まるようになり、自分の馬力でお買い物のお手伝いをする

ことで、少しでも地域の役に立ちたいと思うようになりました。馬の想いを受け、宮太郎は村人たちと寄合を開き、お買い物に困っている人がたくさんいることを知りました。

そこで宮太郎は、「お馬さんといっしょに地域の暮らしの足を支える村人同士の仕組みを作るでござる！」と協力者を集め始めました。

また、宮太郎は、地域の福祉のお城を訪ね歩き、力を貸してほしいと懇願しました。そんな宮太郎のひたむきな姿に、福祉のお城の城主は快く1台で136頭分の馬力がある「車」という乗り物を貸してくれました。

宮太郎は、村人との寄合を重ね、車を活用し、最寄りの食料品店までの送迎を行う「買い物支援サービス」を立ち上げました。

宮太郎のリーダーシップに心奪われた馬は、旗振り役として、自分の馬力を活かしてほしいと願い、宮太郎から持っている宮前メロンの片割れと、馬絹・有馬・東有馬の地名から「マリーヌ」と名前をつけてもらい宮太郎の仲間となりました。

それでも、にんじんをぶら下げるとまっすぐに走っていく「マリーヌ」であった・

買い物支援  
サービス



君の名は  
マリーヌでござる

